

第二次野津田公園整備計画確定までに市民の意見を聞くことを求める請願

請願要旨

町田市は、現在の野津田公園が1987年に策定された基本計画に逸脱しているとし、2012年に第二次野津田公園整備計画の策定に着手することを決定しました。2013年2月から町田市第二次野津田公園整備計画懇談会（以下、懇談会）を組織し、これまで9回の懇談会が開催されました。懇談会は市長への報告として、「町田市第二次野津田公園整備計画懇談会のまとめ」を決定しました。

しかしながら、「基本コンセプト」や基本計画の概要を示す「施設配置の概要」「基本計画平面図」等が市側から懇談会に提示されたのは、第7回目でした。したがって懇談会では、これらの事柄を十分に審議することができませんでした。その結果懇談会が報告する「まとめ」は、基本計画の具体的部分に触れず、意見のまとめにとどめたと聞いています。

懇談会が終了した今、市側は基本計画の確定へと作業を進めています。しかし基本計画の具体的概要について、懇談会での十分な審議もせずに決定することは拙速と言わざるをえません。この3月10日に開催された第9回懇談会（最終回）にて、最後として金子忠一委員長は、市側に「今後も市民の意見を十分に聞いてください」と指摘しています。市側が提示している基本計画案については、以下の問題があることが懇談会においても指摘され、それに対して十分な説明がなされていません。

1 本気で市民や地域との連携を考えているのか（疑問がある）

基本計画案では、バラ園は中央入り口に移転・分割され、面積も大幅に縮小されます。市側の理由は現在の目立たない場所より、公園のメインの位置するよう配慮したと言います。しかし、苗から現在の規模まで育てた市民ボランティアの方々から反対の声が上がっています。市側の基本計画案には、市民との連携や地域との連携によるマネジメント計画が提示されています。本気でそのように考えるならば、これまで市側と協力してきた市民の意向を全く無視するようなことはできないはずです。

2 導入施設や施設配置は十分に考慮したのか（疑問がある）

フィールドアーチェリー、マレットゴルフ、スケートボードなど、新しい競技が基本計画案に入っています。いずれも市内に競技施設が少ないとの理由です。これらは競技人口が少なく、市街地から遠い野津田公園に設置することが本当に良いのか、また本当に当事者たちの希望があったのか疑問です。さらにどのような競技施設が野津田公園にふさわしいのかは、市民・公園利用者全体に聞くべきではないでしょうか。

なお、フィールドアーチェリーについては、子どもや高齢者が利用する遊歩道に隣接しているのは、安全性の面で問題です。

3 周辺施設との兼ね合いについて考慮されているか（疑問がある）

パークセンターゾーンのピクニック広場に設置予定のふれあい動物園は、うさぎなどの小動物を飼育しふれあうことができるという計画ですが、すでに野津田公園に近い所にリス園があり、内容が重複します。その他のパークセンターゾーンの施設も町田市近郊の「こどもの国」と重なる部分が多く、よほどの工夫がなければ集客は見込めません。既成概念に囚われず、自然（もしくは「現在の（自然あふれる）環境」？）そのものが大きな魅力であることに気付くべきです。

4 利用者の想定に甘さがあるのではないか

市側は各競技施設の利用者の想定を第9回によりやく提示しました。そしてその想定の数値は同種の競技の市内あるいは近隣施設の利用者数を援用したものです。競技人口が少なければ、新しい競技施設ができれば分散します。野津田公園の利便性悪さ等、競技の性格なども考慮すべきです。町田市は、市内公園の駐車場有料化の際、利用想定を見誤り、初年度で大幅な赤字を出しました。利用想定は厳しく見積るべきです。

5 財政的根拠を示すべきである

懇談会の席上で市民委員から数度、想定される総工費や予算、収支見込みを示すようとの要求がありましたが、

委員長が「財政のことは懇談会の課題ではない」とし、市側からは「予算や補助金を計上するには計画がないとできません」（第8回の質問に対する回答）とのことでした。しかし財政の逼迫する中、総工費の見当もせず、計画のみをするという姿勢は時代錯誤というものです。また市側の言う通りだとすれば、計画案が固まった段階で算定することは可能ですので、現時点で算定しうる工事費、そして収支見込みを市民に公表すべきではないでしょうか。

6 オリンピックを持ち出すならば、基本計画策定の前に市民と協議をすべきである

第8回の質問に対する回答で、市側は「オリンピックについては、どのようにかわるか未定です。そのため、基本設計で見当していきます」と答えています。第9回懇談会では、金子委員長の質問に答えて、陸上競技場と人工芝の多目的グラウンドがオリンピックを想定して整備していると答弁するなど、すでに招致にむけて動いています。オリンピックのキャンプ地となるならば、大幅な基本計画の変更が余儀なくされます。2重の時間と税金の無駄遣いは避けなければなりません。オリンピックのキャンプ地招致をするかどうか市民の意見を十分に聞き、本格的に協議すべきです。その結論がでるまで本基本計画は凍結すべきと考えます。

最後に、懇談会には、毎回ほとんど傍聴席が満席になるほど傍聴する市民が参加しました。また昨年11月に実施された市民意見の募集には400件以上にのぼる意見が寄せられるなど、野津田公園への関心は非常に高いことがわかります。市議会におかれましてもこのことを十分考慮していただきたいと思います。

私たちは上記の事柄を踏まえて、以下のことを要望します。

請願項目

1. 町田市長は、第二次野津田公園整備基本計画懇談会において、具体的な競技施設や施設位置そしてマネジメントについて十分な審議ができなかったことを踏まえ、市の基本計画案や考えを市民へ周知徹底するとともに、以下の人々に対しても計画を説明、意見を聴取する場を設定し、十分に市民と協議すること。

野津田公園を日常的に使用している者（環境保護、スポーツ）

公園を利用している近隣の教育・福祉関係者

公園周辺の地元町内会・自治会等、学識経験者